

「キャリアセミナー：キャリアデザインの視点から卒業後の進路を考える」を開催しました。このプログラムは、こうち男女共同参画センター「ソーレ」様の補助事業として実施されました。

1. 概要

2025年9月18日（木）の2限～3限にかけて、法政大学キャリアデザイン学部教授の児美川孝一郎先生をお招きし、キャリア形成について学ぶ特別セミナーを実施しました。2限では、児美川先生から「キャリアデザインの視点から卒業後の進路について考える」というご講義をいただき、3限では先生が紹介されたキャリアの考え方を実際に体現している卒業生・若手社会人のお二人に登壇いただき、それぞれの経験をお話しいただきました。

2. プログラム詳細

（1）第2限：基調講義

- ・ 講師：児美川孝一郎 先生（法政大学キャリアデザイン学部教授）
- ・ 講義内容：

キャリアは計画通り一直線に進むものではなく、偶然や環境の変化を取り込みながら自分でデザインしていくものだという考え方を解説してくださいました。「ドリフト・デザイン（時々漂いながらキャリアを移動する）」「計画的偶発性（ビジョンを持ちつつ偶然の機会を活かす）」「パラレル・キャリア（並行的にいくつかの仕事をする）」といった概念を紹介され、将来に対して柔軟に構え、挑戦と選択を繰り返してよいのだというメッセージを学生たちに伝えてくださいました。

（2）第3限：実践者によるトークセッション

- ・ 登壇者①：植田康郎さん（高知大学教育学部卒／高知銀行勤務）

新卒で高知銀行に入行後、世界一周のために一度退職し、その後復職制度を利用して再就職。復職2年目には1年間の育児休業を取得されました。

「仕事は楽しく、会社のために頑張るけれど、自分が最も大切にしたい軸は家族」という価値観を語り、制度を活用することで周囲も使いやすくなるというパイオニア意識を共有してくださいました。また、銀行では入行年度の同期との競争が厳しく、後輩に出世を抜かれるという悔しい思いもしたそうですが、それでも「自分の軸を守りつつ頑張ろう」と決意しながらキャリアを築いていると話してくださいました。

- ・ 登壇者②：楠瀬まどかさん（株式会社アルファドライブ高知／清水屋旅館4代目女将）

男性9割・女性1割という環境の企業に新卒入社。女性にはとても優しく守ってくれる一方で、バリバリ働きたかった楠瀬さんにとっては、かえって「ホワイトなブラック企業」のようにも感じられたといいます。全力で働く一方で、社外活動やスタートアップへの挑戦も経験されました。途中では解雇という苦い経験も含め、多様な転機を経て、現在の仕事に

つながるご縁を得たそうです。

「自己実現のためにどこまで思い切れるか」という葛藤を率直に語り、偶然の出会いと自らの動きがキャリアの可能性を広げることを実感として伝えてくださいました。

3. 参加学生の反応

- 今年度の参加学生は一見おとなしい印象がありましたが、振り返りシートからは一人ひとりが主体的に考え、自己理解やキャリア観を深めていたことがうかがえました。
- 2・3 限での学びは、続く 4 限のグループワークにも反映され、興味深い意見やユニークなキャリアのアイデアが多数生まれました。
- 「自分の軸を持つ大切さ」「偶然を活かしてよい」「挑戦は一度きりでなくてよい」といったメッセージが学生たちの心に響いたようです。

4. 講師からのコメント

• 児美川先生

「学生の皆さんはじっと座っているように見えても、頭の中では活発に考えてくれていたと感じました。私自身も刺激を受けました。」

• 廣瀬コメント

「おとなしい印象の学生たちでしたが、感想を読むとしっかり思考し成長していることがわかりました。3 限の話題は 4 限のグループワークでも活発に反映されていました。」

5. まとめ

今回のセミナーは、単にキャリア情報を得る場にとどまらず、「自分らしいキャリアをどうデザインするか」という実践的な視点を学生に届ける機会となりました。社会の制度をうまく活用する力や、偶然の出会いをチャンスに変える発想が伝わり、学生が不確実な未来を前向きにとらえ、自己理解を深めるきっかけとなったと感じています。(廣瀬)

